



EVENT INFORMATION

2026 年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会

このたび、本大会を茨城県水戸市にて開催する運びとなりました。知と技が響き合い、協創を楽しむ大会となるよう、準備を進めています。皆さんに「また頑張ろう」と感じていただけるように。そして「とても楽しかった」と言ってもらえることを願っています。

大会長 沼尻 俊夫(公益社団法人 茨城県診療放射線技師会 会長)

〈テーマ〉「知と技の調和 ～常陸国から協創力を～」

〈会期〉2026年6月27日(土)・28日(日)

〈会場〉水戸市民会館

〈参加費〉会員:5,000円、非会員:7,000円、学生:無料(大学院生除く)

〈懇親会〉会員:7,000円、非会員:7,000円、学生:7,000円

2026年度 関東甲信越
診療放射線技師学術大会

90 題を超える演題登録をいただきました！！

2026年3月5日に演題募集を終了いたしました。予定していた70題を大きく上回り、90題を超える登録をいただきました。ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。現在、最高の企画を、最高の先生方にお引き受けいただきながら準備を進めています。ぜひ楽しみにしていただければ幸いです。

2026 年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会 実行委員一同

INFORMATION

放射線測定支援事業を開始しました！



令和8年4月1日より、(公社)茨城県診療放射線技師会 環境放射線部において放射線測定支援事業を開始いたしました。

本事業は、当会が所有・管理する放射線測定器の貸出および各種マニュアル(放射線測定器使用マニュアル、放射線漏えい線量測定マニュアル)を活用し、医療機関における放射線漏えい線量測定を支援する取り組みです。放射線安全管理体制の強化、担当者育成、立入検査対策の一助として、ぜひご活用ください。

なお、令和8年度はパイロット期間とし、事務手数料は無料、送料のみのご負担で放射線測定器の貸出を実施いたします。

皆さまのお申込みを心よりお待ちしております。

▼ 事業の詳細・お申込みはこちら

(公社)茨城県診療放射線技師会 放射線測定支援事業

<https://sites.google.com/view/iarttop/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

「引き出しを増やそう！3領域の撮影ポイント」

2025年12月11日(木) 18:30~20:00 Web形式

参加者:会員28名(うち講師4名)、非会員3名(学生2名)

被検者の状態に応じたポジショニングや体位調整を行うことの重要性を再確認！

本勉強会はWeb形式で開催され、「引き出しを増やそう！3領域の撮影ポイント」をテーマに、脊椎編・下肢編・小児編の各領域における撮影技術について講演が行われた。

脊椎編では、東京医科大学茨城医療センターの野竹亮吾氏が講演を行い、椎体単純X線撮影の役割が、従来の形態評価から機能評価へと移行しつつある現状について解説された。また、腰椎前後屈撮影や立位・非荷重位撮影を中心に、脊椎不安定性や圧迫骨折の評価を目的とした撮影意義とポジショニングの考え方が示された。

下肢編では、ひたちなか総合病院の富山華那氏が講演を行い、下肢関節撮影における膝関節・足関節の正面・側面・荷重位撮影について、具体的なポジショニングが解説された。加えて、疼痛や可動制限により通常体位が困難な場合の撮影工夫についても紹介され、臨床現場で実践的に活用できる内容であった。

小児編では、筑波メディカルセンター病院の神山彩絵氏が講演を行い、乳幼児・小児撮影における安全管理を最優先とした基本姿勢や、2名以上での保持、補助具活用の重要性について解説された。日常業務に直結する具体的な撮影ポイントが整理され、小児撮影に対する理解と技術向上に有用な内容であった。

いずれの領域においても、適切な画像評価基準を理解したうえで、被検者の状態に応じたポジショニングや体位調整を行うことの重要性が再確認された。本勉強会で得られた知見を日常業務に活かし、より安全かつ質の高い撮影技術の向上に努めていきたい。(報告者:桑野光)

「Stroke Frontline — 画像と看護の連携で挑む急性期医療」

2026年1月24日(土) 14:00~18:30 水戸市民会館3階大会議室・ハイブリッド形式

参加者:現地およびWeb計100名

即現場で使える技術や病態・病状への理解度を飛躍的に向上させる質の高い内容！

去る2026年1月24日、水戸市民会館において、茨城県診療放射線技師会CT研究会・MR研究会と茨城県手術看護認定看護師会・救急認定看護師の4団体による合同学術セミナー「Stroke Frontline — 画像と看護の連携で挑む急性期医療」を開催いたしました。本セミナーは、専門領域の垣根を越えて看護師、診療放射線技師が共に学び、最新の知識と技術を共有することで、地域医療の質を向上させることを目的とした公益事業です。今年度も昨年度同様にハイブリッド開催といたしました。

A会場(放射線・総合)では、脳撮影技術や320列CTを用いた頭部Perfusion診断、MRIの注意点やMRI perfusionの実践など、脳卒中診療に直結する画像技術に関する一般演題4題が発表されました。B会場(看護・ハンズオン)では、チームで支える救命体制や術中心停止事例からの学びなど看護の視点からの演題2題に加え、茨城県救急看護勉強会との合同企画として、MRI検査中およびCT検査中における急変時対応を体験する「ハンズオンセミナー」を2つのブースにわたって展開いたしました。参加者は実際の装置やシミュレーターを用いた操作体験を通じ、日常業務に直結する実践的な技術を深く学ぶことができました。

特別講演では、茨城東病院 診療看護師 川崎竹哉先生に「脳神経看護とクリティカルケア」と題し、クリティカルケアの現場における看護の真髄と判断力について、秋田県立循環器・脳脊髄センター 大村知巳先生に「脳卒中診療における画像の役割—診断+ α の価値について—」と題し、診断にとどまらない画像の多角的な価値について、それぞれ深く掘り下げていただきました。どちらも即現場で使える技術や、病態・病状への理解度を飛躍的に向上させる質の高い内容であり、参加者からは「非常に勉強になった」「明日からの臨床現場ですぐに実践したい」といった感銘の声が多く寄せられました。

また、本会の趣旨にご賛同いただいた富士フィルムメディカル株式会社をはじめとする11社の協賛企業の皆様には、協賛会場での展示や情報提供を通じて多大なるご協力を賜りました。最新の製品やトレンドに触れる貴重な機会となり、心より感謝申し上げます。

職種の枠を超えたディスカッションも活発に行われ、明日からの業務へのモチベーションを高める大変有意義な時間となりました。

準備に際しましては、実行委員会の皆様、ならびに開催準備や当日の運営を支えてくださった各団体のスタッフの皆様、休日返上でご協力いただいたすべての関係者に深く感謝申し上げます。

今後も本事業を通じて、各団体および診療放射線技師同士の連携・理解を深め、より質の高い放射線診療を提供できるよう努めてまいります。

(報告者:岡裕之)



令和8年2月10日(火) 18:30~20:30 Web 配信

参加者: 会員 31 名、非会員 13 名、学生 2 名、企業 2 名

読影環境の整備から基礎知識の再確認まで幅広く学ぶ機会に！

今回の研究会では、まず企業からの情報提供として EIZO 株式会社の佐々木香純氏より、「モニタの精度管理」についてご紹介いただきました。読影に使用される医用モニタの特性や表示性能の管理の重要性について解説があり、定期的なキャリブレーションや輝度・コントラスト管理の方法など、実務に直結する内容をご提示いただきました。日常業務において見落としがちな管理項目についても整理され、大変参考となりました。

講演①では、株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院の黒沼 真由美 先生に、「マンモグラフィにおける読影補助業務の実際について」ご講演いただきました。読影補助者の役割や業務範囲、実際の運用体制について具体例を交えて解説がなされました。また、医師との連携の在り方や情報共有の工夫についても紹介され、現場での実践に活かせる内容となっていました。

講演②では、筑波記念病院の渋谷 陽子先生に「マンモグラフィ読影の基礎」についてご講演いただきました。乳腺構造の基本的理解から、所見の捉え方、カテゴリー分類の考え方まで、基礎的事項を体系的に解説いただきました。症例画像を用いた説明もあり、読影のポイントを具体的に学ぶことができました。

今回の研究会は、マンモグラフィ業務に携わる技師にとって読影環境の整備から基礎知識の再確認まで幅広く学ぶ機会となりました。参加者にとって日常業務を見直す有意義な研修の場となりました。

(報告者: 宮田真理子)

令和8年2月19日(木) 18:00~19:00 筑波大学健康医科学イノベーション棟 8階講堂+Web 配信

参加者: 239 名(会員 134 名、非会員 54 名、医師・その他 51 名)

聴講者参加型のクイズを交えながら具体的な事例を分かりやすく解説！

令和7年度読影補助講習会を「オープンイメージングカンファレンス IN つくば」との共同開催で行いました。筑波大学の講堂と Zoom Webinar によるハイブリット開催により 239 名と多くの参加がありました。

講演は、総合病院土浦協同病院 放射線診断科部長の川田 秀一先生より「明日まで待てない！STAT 画像報告～腹部所見の拾い方」とのテーマで行われました。腹部 CT における単純と造影画像の比較を中心に、聴講者参加型のクイズを交えながら具体的な事例を分かりやすく解説していただきました。診療放射線技師に必要とされる STAT 画像報告の重要性や迅速性と正確性の両立において留意すべき点など、日常業務を振り返るうえでとても勉強になりました。

今後も、診療放射線技師の読影補助業務拡大への一助になるよう事業を行っていきたいと思います。

(報告者: 佐藤雅之)

REPORT

第 31 回 放射線安全講習会

2026 年 2 月 21 日(土) 14:00~16:00 Web 形式(Zoom)

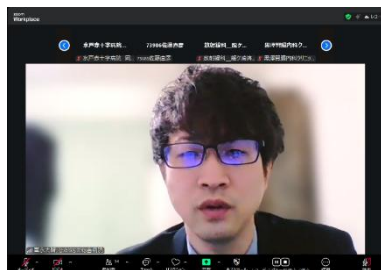
参加者: 会員 39 名、非会員 23 名

放射線安全管理の要点を体系的に学べる内容で満足度の高い講習会に！



第 31 回放射線安全講習会を Zoom による Web 形式にて開催した。本講習会は「放射線の基礎・小児および女性被ばく」「一般撮影・ポータブル撮影」「核医学」「放射線治療」「法令」の 5 部構成とし、各分野における安全管理の要点を体系的に学べる内容とした。

参加者は診療放射線技師および看護師が中心であり、日常業務に直結するテーマへの関心の高さがうかがえた。また、少数ながら他県からの参加もあり、地理的制約を受けない Web 開催の有用性が改



めて示された。

講習会後のアンケートでは、対面開催よりも Web 開催を希望する意見が多数を占めた。受講目的としては、「院内の放射線管理に役立てるため」「放射線被ばくに関する知識向上を図るため」といった回答が多く、実務への応用を意識した参加動機が目立った。各講義に対する満足度も総じて高く、本講習会が参加者のニーズに即した内容であったことが確認された。



次回の第 32 回放射線安全講習会は、2026 年 9 月頃の開催を予定している。今後も Web 開催を軸としつつ、より実践的で質の高い内容を提供することで、看護師をはじめとするコメディカルスタッフへの放射線安全利用に関する知識の普及・啓発を継続的に推進していきたい。（報告者: 長谷川健）

REPORT

第 22 回 茨城放射線腫瘍研究会

2026 年 2 月 28 日(土) 13:30~17:00 つくば国際会議場

参加者: 105 名

(会員 23 名、非会員 13 名、医師 25 名、医学物理士 11 名、看護師 15 名、学生 6 名、その他 12 名)

日頃の研究成果や臨床経験の報告があり、多職種による活発な議論の場に！

茨城県内の放射線治療に関わる医師、看護師、診療放射線技師、医学物理士等、多くの職種が一同に集まり、つくば国際会議場にて研究会が開催されました。今回の研究会テーマは、「働き方改革時代の放射線治療～タ

スクシェアの重要性～」とし、一般演題は 12 演題の発表でした。発表者は、日頃の研究成果や臨床での経験を報告され、質疑応答の際には、多職種から様々な視点でのやり取りがあり、活発な議論の場となりました。

参加された多くの方々が、研究会の合間や終了後も意見交換をされており、大変有意義な研究会となりました。

(報告者:根本善誉)



REPORT 第 146 回 茨城県超音波研究会

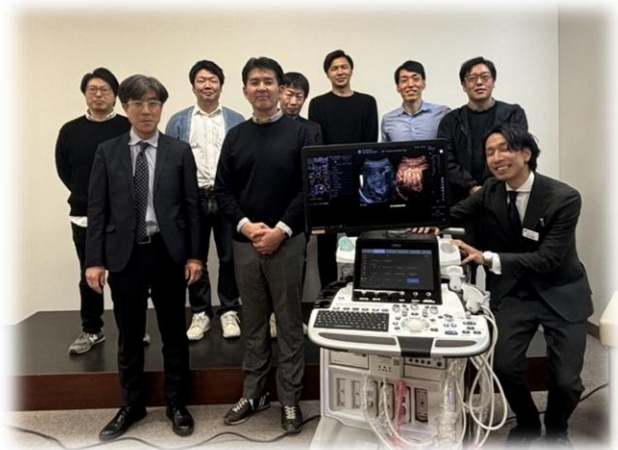
2026 年 2 月 28 日(土) 14:00~16:30 筑波メディカルセンター病院 TMC ホール

参加者:33 名(会員 16 名、非会員 17 名)

臨床側に正確な情報を伝える必要性を痛感！実りある内容に！

今回の研究会は、胆道領域テーマにプログラムを構成し、開催いたしました。

最初に、筑波メディカルセンター病院の齋藤創氏に「胆嚢・胆管走査」と題してご講演いただきました。前半はスライドを用いた講義、後半は実機とモデルを用いたライブデモンストレーションという構成で、実際の走査を行いながら丁寧に解説していただきました。ライブデモの開始前に検者の手元を映す機器にトラブルがあり、参加者が装置を囲む形での実施となりましたが、スクリーン越しではなく直接手技を見ることができ、より実践的で臨場感のある学びの場になったと思われま



続いて、聖マリアンナ医科大学病院 超音波診療技術部の岡村隆徳先生をお招きし、「胆嚢・胆管の超音波検査」をテーマにご講演いただきました。基礎的な解剖・生理から、日常検査で遭遇することの多い疾患まで、豊富な画像や図を交えて分かりやすく解説していただきました。検査時に意識すべきポイントが明確に整理され、明日からの検査にすぐに活かせる内容であったと思います。その中でも特に印象に残ったのは、急性胆嚢炎の超音波像に関する内容で、発症からの経過によって所見が変化し、必ずしも典型像を示さない場合があることを改めて学びました。日常診療において、良く経験する疾患であるからこそ、臨床側に正確な情報を伝える必要があると痛感しました。約 80 分ご講演いただきましたが、初学者から経験豊富な技師まで、多くの参加者にとって実りある内容でありました。



最後に、会場の手配や準備、受付業務にご協力いただきました筑波メディカルセンター病院 放射線技術科の齋藤創氏、ならびに超音波装置の提供とメーカー講演をご担当いただきました GE ヘルスケアジャパン株式会社に、心より感謝申し上げます。

(報告者:大石武彦)

REPORT

令和 7 年度 第 3 回 被曝低減の為の基礎講演会～水晶体に着目して～

令和 8 年 3 月 4 日(水) 18:00~19:30 Zoom による Web 形式

参加者:会員 23 名、学生 7 名

水晶体被ばくに関する知識の整理に！

今回は「水晶体」をテーマとした基礎講演会を開催した。

第 1 部は基礎講演として、「診療放射線技師として知っておきたい水晶体被ばく防護」というテーマで茨城県立医療大学の花田先生に講演していただいた。水晶体被ばくの基礎から今後の展望まで幅広い内容で講演していただき、改めて水晶体被ばくに関する知識を整理することができた。

第 2 部では、実際の臨床現場における水晶体被ばくの実態に関する研究発表を行なっていただいた。講演 1 では「水晶体被ばく線量を推定するための個人被ばく線量計装着位置の検討」というテーマで、実際の血管造影検査時における個人線量計の装着位置によって、測定値の意味合いが大きく変わってしまうことを改めて理解することができた。講演 2 では「経皮的肺動脈バルーン形成術における術者被ばく低減対策の検討～各防護具および自作鉛手台の遮蔽効果～」というテーマで、遮蔽版や天吊り防護板の組み合わせで術者被ばくを大きく低減可能することができるという内容であった。また既存の防護具だけではなく、術者の手元を防護する自作の鉛手台も大きな被ばく低減効果が期待できることが示唆された。

(報告者:杉山雅美)

REPORT

第 8 回 乳腺研修会

令和 8 年 3 月 15 日(日) 10:30~12:30 筑波大学附属病院

参加者:会員 3 名、学生 2 名

日常のマンモグラフィ撮影業務を見直し、ポジショニングの重要性を再確認する機会に！

今回の研修会では、マンモグラフィ撮影におけるポジショニングのポイントの解説と、実習形式によるポジショニング実技を行いました。

はじめに、乳腺組織を適切に描出するための基本的な考え方や、乳房の引き出し方、体位の取り方、受診者への声かけなど、撮影時に意識すべきポイントについて解説しました。また、良好な画像を得るための注意点や、ポジショニングが不十分な場合に生じる問題点についても説明し、日常の撮影業務を見直す機会となりました。

実習では、実際の装置とファントムを用いてポジショニングを体験しながら、学んだ内容を実践的に確認しました。参加者同士で受診者役と撮影者役を交代しながら体の位置や乳房の引き出し方などを確認し、個別に助言を行いました。



今回は少人数での開催であったことから、一人ひとりに十分な時間をかけて実技指導を行うことができ、参加者それぞれの疑問や課題についても丁寧に対応することができました。講義と実習を通して、マンモグラフィ撮影におけるポジショニングの重要性を改めて確認する機会となりました。 (報告者:宮田真理子)

REPORT 2025 年度 第 2 回 放射線治療技術研究会

2026 年 3 月 17 日(火) 18:00~20:00 Zoom

参加者:会員 53 名、非会員 7 名、学生 3 名

物理・臨床の両面から理解を深める有意義な研究会に！

近年の定位放射線治療は、機器の高精度化とともに適応拡大が進み、日本国内においても各施設で積極的に導入・運用が進められています。本研究会では、Web 形式にて開催され、県内および県外から総勢 60 名を超える参加があり、関心の高さがうかがえました。

前半のセッションでは、県内の放射線治療施設より脳・肺・椎体に対する症例別の実施例が報告され、固定方法や動体管理、線量分布の最適化など物理的側面に関する具体的な取り組みが共有されました。

後半のセッションでは、筑波メディカルセンター病院の大城先生にご講演いただきました。医師の立場から定位放射線治療の臨床的意義や適応、治療戦略についてお話いただき、近年の国内動向を踏まえた内容でした。

物理・臨床の両面から理解を深める、有意義な研究会でした。当研究会を通して、会員の皆様の情報共有の場となれるよう、今後も継続し研究会を企画していきたいと考えております。

(報告者:根本善誉)

MINUTES 令和 7 年度 第 4 回理事会議事録(抜粋)

※正式な議事録は IART ホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。

開催日時:令和 8 年 1 月 30 日(金) 18:00

場 所:対面(水戸赤十字病院アメニティ棟会議室)・ZOOM によるハイブリッド形式

出 席:野澤 哲也、鈴木 昭義、平野 雄二、伊東 善行、奥村 英一郎、奥山 寿恵、

小澤 篤史、佐藤 雅之、篠田 和哉、砂森 秀昭、菌部 純一、高坂 倫江、田子谷 佳加、富田 哲也、

塩谷 浩之、安江 憲治、福士 政広、山下 ひろみ、宮本 勝美(監事)、川又 誠(顧問)、

鈴木 達也(顧問)、長谷川 光昭(顧問)、横田 浩(顧問)

欠 席:沼尻 俊夫(会長)、瀬谷 善恭(副会長)、守田 美和子(監事)

議 長:鈴木 昭義(常務理事)

書 記:佐藤 雅之

【定数確認】

事務局より、理事 18 名出席が確認され、定款により本理事会が成立するとの報告があった。

今会議の議長は鈴木 昭義、議事録作成人は佐藤 雅之、議事録署名人は、瀬谷 善恭・野澤 哲也とする。

【議事】

【1】 令和8年度事業計画案・予算案について

- ・総務、学術等のまとめが完成した。役員・理事に記載の誤りがないかチェックしていただいた。
- ・収支予算書の内容に関して、前年度からの変更点等を菌部理事より説明。
 - ①経常収益(参加費に関すること)
 - ②経常費用(印刷費用に関すること)
 - ③当期経常増減額では来年度予算案において黒字化した。
- ・まずは現在提示している金額でよいか →承認
- ※最終的に会長が作成し、3月の理事会で承認を得る。

【2】 令和8年度役員選任(選挙管理委員会設置)について

選挙管理委員候補	
竹林 浩孝	筑波メディカルセンター病院
木村 愛夢	土浦協同病院
千木崎 信介	水戸赤十字病院
渡部 将典	筑波大学附属病院
佐藤 竜太	日立総合病院

- ・上記5人で委員会を設置し、2月上旬に委員会を開催予定

【3】 放射線展(リーフレット作成の謝金)について

以下、完成したリーフレット

診療放射線技師について — あなたの健康を守る「身近な放射線の専門家」—

診療放射線技師は医師の指示のもと、放射線を用いた検査及び治療業務を行うことのできる国家資格を有する高度医療職です。人体に放射線を当てることが出来るのは医師・歯科医師の他に診療放射線技師のみです。

一般造影 病気・骨折の発見に！

骨密度検査 骨密度を測定！

超音波検査 超音波を使って検査！

マンモグラフィ 乳がんの発見に！

核医学検査 放射性薬剤を使った検査！

CT検査 X線を使って体の断面像を取得！

MRI検査 磁石を使った検査！

放射線治療 放射線を使ってがん細胞を破壊！

人体への放射線照射
医療診断 機器の操作
機器や医療 被ばく管理

すべての方が安心して放射線医療を受けられる環境を支えています。

放射線技師になるには…

放射線技師養成学校へ進学
専門学校(3年間)または大学(4年間)放射線について勉強！！

診療放射線技師国家試験を受験
臨床分野から基礎分野まで幅広い分野から出題されます

診療放射線技師として活躍！
クリニック、病院だけではなく企業で活躍する人も！

公益社団法人
茨城県診療放射線技師会
Ibaraki Association of Radiologic Technologists

〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館5F
Tel.029-243-6747 Fax.029-244-6767

放射線とは

放射線の種類

放射線とは、高いエネルギーを持った高速の粒子や電磁波のことです。放射線にはたくさんの種類があり、それぞれに物理的特徴があります！

- 主にがん治療に使用される放射線
 - α線
 - β線
 - 陽子線
- 主にレントゲン写真やCT撮影に使用
 - 中性子線
 - その他
- 荷電粒子
- 非荷電粒子
- 放射線
 - X線
 - γ線
- 電磁波

放射線と放射能の違い

「放射線」は、放射性物質から放出される粒子や電磁波のことです。放射線を出す能力が「放射能」、放射線を出す物が「放射性物質」です。

【懐中電灯と放射性物質でたとえると】

光 → 懐中電灯 → 光を出す能力

放射線 → 放射性物質 → 放射能 (放射線を出す能力)

放射能の単位

- 放射能: ベクレル (Bq) → 放射線の強さを表す単位
- 放射線: シーベルト (Sv) → 放射線の人体への影響を表す単位
- 放射線: グレイ (Gy) → 放射線のエネルギーがどれだけ物質に吸収されたかを表す単位

日常生活における被ばく(年間)

日常生活においても、私たちは被曝をしています。それらの被曝は自然放射線と人工放射線に分類され、主に以下のような要因によります。

自然放射線

- 宇宙から: 0.31mSv
- 食物から: 0.9mSv
- 空気中のラドン: 0.47mSv
- 大地から: 0.33mSv

人工放射線

- 医療 X線検査: 0.06mSv
- CT検査: 2.4~12.9mSv

自然放射線 2.1mSv | 人工放射線 2.6mSv

日本平均: 0.47, 0.31, 0.99, 0.33, 2.4

ラドン・トロン | 宇宙 | 食物 | 大地 | 医療

様々な分野での放射線の利用

農業

発芽防止 | 品種改良

エネルギー

原子力発電

産業

非破壊検査 | 医療器具の滅菌

その他

年代測定 | 煙草検査

生活の中で、放射線から完全に逃れることはできません。一方で、放射線と上手に向き合うことで生活を豊かにすることが出来ます！

放射線による人体への影響

確定的影響

白内障、脱毛など

しきい値を超えなければ影響なし

しきい値を超えれば影響が現れる。しきい値以下の被ばくでは発症しない。

低線量でも発生しやすいが可逆的影響

確率的影響

がん、白血病

線量が増えると影響が出現しやすい

しきい値が存在せず、放射線を受ける量が多くなるほど影響が現れる確率が高くなる。

被ばくに関わらず影響を受ける

放射線から身を守る方法

- 距離を近づけない
 - できるだけ放射性物質から離れる
 - 線量と距離の関係: 距離が増えると線量は小さくなる
- 時間を短くする
 - できるだけ短い時間で!
 - 線量と時間の関係: 時間が短くなると線量は小さくなる
- 適切な種類・厚みの遮蔽物を利用
 - 適切な種類・厚みの遮蔽物を利用
 - 線量と遮蔽物の関係: 遮蔽物の厚みが増えると線量は小さくなる
 - コンクリート厚

作成協力者

氏名	所属
小倉 世椰(オグラ セイヤ)	筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 フロンティア医科学学位プログラム
阿部 誉史(アベ ヨシフミ)	筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 フロンティア医科学学位プログラム
高野 晴光(タカノ ハルミツ)	筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 フロンティア医科学学位プログラム
松岡 瑞樹(マツオカ ミズキ)	筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 フロンティア医科学学位プログラム
米田 奈央(ヨネダ ナオ)	筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 フロンティア医科学学位プログラム

「塩谷理事」

- ・筑波大学院生にリーフレット作成をお願いし、謝金を贈ることについては前回の理事会で承認。
- ・謝礼額について、規定にもないので金額を決めたい。
- ・これについては企画情報部から捻出してもらうのが妥当、予算残額は 70,000 円。

「富田理事」

- ・6,000 円×5 人=30,000 円でいかがでしょうか。
- ・感謝状もあわせて贈呈したい →特に反対意見等なし。
- ・福士先生より前回指摘されたパンフレットの表示順は訂正されているのか? →訂正済み
- ・今後をふまえ謝金などの規定を追加しては? →都度、理事会で承認する方向で

【4】 総会委任状のハガキ運用保持(継続)について

- ・結論としては電子化を検討したが、ハガキ運用を継続していく(25万円の費用削減になっている)。
- ・デジタル庁から電子委任状法で Google form は安全管理上好ましくないとのこと。委託会社利用を勧めているが結構な金額。
- ・議案書は電子化で問題ない。
- ・今後の電子化案として、メールでやり取り。各個人に送付し返送していただく。→承認

【5】 2026 年度茨城県診療放射線技師学会の参加費について

- ・関東甲信越大会参加者は県学会の参加費免除の方向で運営会議にて話がすすんでいる。これにより参加者増加につながるのではないかと考えている。
- ・参加費による収益減少について。
→抄録を電子化することで 150,000 円の費用削減を見込んでいるので、参加費の収益減少分を補填できると考えている。
→承認

【6】 その他:会費回収取り下げについて

- ・病气療養中に自動的に退会になった会員の会費未納分について、IART は回収放棄とする。
→承認

【7】 その他:会員の会費免除について(該当者1名)

事務局 鈴木さんより

- ・理由;産休育休のため →免除で承認

【8】 その他:2026 年 1 月の会員状況について

新入者;2 名

退会者;6 名

→承認

【9】 その他:臨床実習施設(指導者)の在り方について

福士理事より

- ・臨床現場経験 5 年以上の指導者 1 名につき 2 名の実習生受入れ可となっている。
- ・5 年未満の指導者で問題があった場合、病院の責任になってしまうことを懸念。
- ・問題となっているのが、パワハラ、セクハラなどで心が折れてしまう学生がいる。
- ・来年度以降、臨床実習指導者講習会受講者がいる施設が実習受入れを行う方向で動いている。

【10】 その他:来年度から新卒者 IART の会費免除(1年目)の開始

・新卒者が入職する施設は、技師会入会を推奨しましょう。

次回 2026年3月18日(水)

MEMBERSHIP TRENDS 会員動向

新入会員

島崎 七海	公益財団法人 日立メディカルセンター
浅野 和輝	結城病院
中村 彩楽	総合病院 土浦協同病院
宮本 菜緒佳	つくばセントラル病院
小田部 璃玖	独立行政法人 茨城東病院
武藤 千明	茨城県立中央病院
佐々木 涼伍	つくばセントラル病院



転入会員

平塚 拓海	登録なし
-------	------

2026年3月16日現在 会員数 716名

EDITOR'S NOTE 編集後記

春の陽のあたたかさを感じ、生命の芽吹きに心躍る季節となりました。私は花粉症と戦いながらも、春の訪れを楽しんでおります。

現在、関東甲信越診療放射線技師学会の開催に向けて、実行委員が一丸となって準備をすすめております。大会当日はぜひ会場に足をお運びいただきますよう、よろしくお願いいたします。(奥山 寿恵)



発行元 公益社団法人 茨城県診療放射線技師会

〒310-0851 水戸市千波町 1918 茨城県総合福祉会館 5階

TEL 029-243-6747 FAX 029-244-6767 E-mail mailbox@iart-web.org

発行責任者:沼尻 俊夫

編集:奥山 寿恵